

JATAN設立30周年記念イベント

NGO連続講座 サラワクと日本 —30年にわたる草の根運動を振り返る—



日本とサラワク SARAWAK 草の根運動の30年



第1回 サラワク熱帯林問題事始め
講師: 樫田秀樹/フリージャーナリスト
日時: 2019年7月5日(金) 18:30 ~
会場: **地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)**
東京都渋谷区神宮前5-53-70国連大学ビル1F
※2019年度 JATAN総会同時開催

■第2回以降(具体的な日程・場所等はJATANの[イベントサイト](#)にてご確認ください)
第2回 『サラワクの風』を振り返る(仮題)
内田 進夫/フォトジャーナリスト・JATAN運営委員
2019年8月30日予定
第3回 サラワクの違法伐採問題はいま(仮題)
西岡 良夫/ウータン・森と生活を考える会
2019年11月予定
第4回 サラワクの先住民(仮題)
トム・エスキルセン/サラワク・キャンペーン委員会
2020年1月予定
第5回 日本におけるサラワク材需要はどう変わったか(仮題)
三柴 淳一/国際環境NGO FoE Japan
2020年3月予定
第6回 ポリティカル・エコロジーで考えるサラワクの熱帯林問題(仮題)
金沢 謙太郎/信州大学
2020年5月予定



世界でもっとも古い熱帯林のひとつ、生物多様性の宝庫とも呼ばれるボルネオ島。1980年代から日本の南洋材貿易の重要なパートナーを担ってきたサラワクは、そのボルネオの北側にあるマレーシア領の州です。80年代半ばから、日本の商社とサラワクの木材企業は、世界的にも希少な熱帯林の森林資源の搾取、森に住む先住民たちへの迫害をおこなってきました。ただ、サラワクと日本はそうした片務的な需給関係ばかりで結ばれてきたわけではありません。伝統的な暮らしが失われていく窮状を訴えるサラワクの先住民たちからの声を真摯に受け止め、サラワクの熱帯林の大切さを日本の社会に伝え、南洋材の取引停止を商社などにアピールしようと奮闘してきた市民、ジャーナリスト、研究者の存在を忘れてはなりません。

熱帯林行動ネットワーク(JATAN)は1987年にサラワクの熱帯材問題に大きな懸念を抱く普通の市民や市井の活動家たちがはじめた草の根の団体でした。小さなキャンペーン団体が30年も超えて活動が続いてこれたのは何よりも、少なからぬ市民の支援が絶えなかったことの証しですが、同時に、日本が関わる熱帯林問題が経済のグローバル化を迎えたいまも終焉していないことの証左でもあると言えます。

これまで支援をしていただいた方たちを講演者にお招きし、会員をはじめ多くの人たちとともにJATANの活動を振り返るという2年前の構想は、ようやくここにきて、実現できる運びとなりました。ひとりでも多くの方のご参加をお待ちしています。

